

市民対象のビデオ編集講座による地域貢献

Contribution to Local People by Video Editing Lecture

田 縁 正 治

動画を編集して記録する手段としてコンピュータを利用する方法を広く普及させるための活動を行った。特にその有効な普及方法として市民講座を利用することを行った。動画の編集はコンピュータのパワーを必要とし、操作方法もワードプロセッサや表計算などの普及したソフトウェアとは異なるので、年齢の高い人には理解が困難であった。より分かりやすい方法を模索したのでその結果を報告する。

キーワード：ビデオ編集、市民講座、フリーソフト、コンピュータ、DVD

目 次

- I 序論
- II 大学案内用DVD
 - 1 概要
 - 2 収録内容
 - 3 利用状況
- III 市民対象のビデオ編集講座
 - 1 概要
 - 2 事前準備
 - 3 市民対象のビデオ編集講座の実施
 - 4 アンケート結果

I 序論

物事を人に伝えるときに、文字情報以外に映像を利用することはとても効果的である。実際Webページでは豊富に図を取り入れていることが多い。最近ではこれに加えて動画を利用することが増えている。この理由は近年コンピュータの性能が向上し映像を編集する機能が格段に向上した

ことによるだろう。また、ビデオカメラの機能も向上しデジタルカメラによる撮影とDVDを利用して保存する環境が整い、一般家庭でも利用することが可能になった。

しかし、ワープロソフト、表計算、ホームページ作成といったソフトウェアの利用とは異なり、実際にはその操作方法が一般的に知られていないようで、十分利用されていないように思われる。その理由のひとつは、ワープロソフトなどとは異なり、コンピュータのパワーを必要とし、最近になってやっとパソコンレベルでも行えるようになったためだと考えられる。動画をDVDにして保存する方法が普及すれば、子育ての記録を手軽にみることができ、近年の少子化に対する対策のひとつになることが期待される。また、さまざまな講演会や授業などでも動画を利用する機会が増加しており、動画をDVDにして保存する方法の普及は有意義であると考えられる。このような背景から、ビデオ編集機能に対する一般家庭における利用ニーズと知識レベルを調査し、その知識の普及を効率よく図る方法を探ることとした。そこで、大学案内用DVDを自作して利用して動画を利用することの効果进行调查したり、宮崎公立大学が実施する自主講座としてビデオ編集講座を開きその応募者を対象として、ビデオ編集能力のレベル調査と実際に解説することで分かりやすさのテストを行うこととした。その結果をここで報告する。

II 大学案内用DVD

1 概要

宮崎公立大学では平成19年度より高校生向けの大学案内用DVDを作成することになった。従来はこれから大学を受験しようとする受験生に大学の情報を提供するために大学案内と称するパンフレットが作成されていた。これはカリキュラムや教員など大学のさまざまな情報を盛り込んでいて重要な情報提供手段である。しかし、実際の講義の雰囲気や学生生活を実感することができないことは事実であった。動画で大学を受験生に紹介できればより良い大学の選択が可能になると思われる。このような考えで宮崎公立大学は平成19年度の年度計画に大学案内用DVDの作成を入れた。

この中には大学におけるさまざまなイベント、部活動、講義風景、卒業生のコメントなどを収録している。イベントは入学式、スポーツデイ、大学祭、卒業式などを収めている。また、入学試験を行った後に合格発表を行うがこれを見に来た受験生の様子も収めた。合格を知って喜ぶ姿は見る人にとっても好感を与える映像だった。これは高校生に対し、単に写真で示すよりは強い印象を与えることが分かった。

2 収録内容

大学案内用DVDを作成するに当たり、初めに行ったことは収録内容の選択であった。大学の中で起っているさまざまな出来事のうちのどれを撮影して収録するかは重要な問題である。講

義の様子を入れることは当然であった。講義は大教室による多くの学生を対象とした講義から、人数が少ない専門演習にいたるまで多様な講義を対象とした。また、コンピュータを利用する講義や韓国語など高校生から見たら馴染みの薄い講義も取り入れることにした。また、さまざまなイベントも取り入れることにした。部活動は動画を利用すると分かりやすい例であろう。そして、留学や資格試験なども取り入れることにした。また、実際に大学で学んでいる学生や、卒業して社会で活躍している卒業生にインタビューすることで別の面を示すことができると考えた。最後の内容はこれまで説明してきた内容とは少し異なる視点で選択した。高校生は遊び心に富んでおり、これを刺激することができればこちらが伝えたいことをより有効に伝えられると期待できる。そこで、最後の内容としてクイズを作成することにした。まず大学の写真を2種類用意した。これらの写真はほぼ同じ写真だが、ある部分が違うように撮影されている。そして、一方の写真からもう一方の写真へと表示する写真を変更する。これで違う部分を問うことがこのクイズの内容である。

収録する内容が決定したら、次の作業はそれを提示する方法である。雑然と提示しては受け取る側は極めて扱いにくい情報であろう。そこで、メニューに分類することとした。トップメニューはイベント、学生生活、施設・地域貢献、卒業生の紹介、クイズの5種類とした。そして、それぞれのメニューにはおおむねサブメニューを用意し細分化することで分かりやすい情報とすることにした。そしてひとつひとつのメニューまたはサブメニューにビデオクリップを対応させることとした。このビデオクリップは単に撮影した映像を提示するだけでは分かりにくい情報となる懸念があった。そこで、ビデオの映像を説明するナビゲーターを用意することにした。ナビゲーターはビデオを見る人にやさしいというイメージを与え、聞き取りやすい声の持ち主という理由からある女子学生を選んだ。彼女は私の専門演習に所属する学生だった。専門演習の中から選択した理由は良く知っていることであった。これから色々な表情をして大学を説明してもらうのだから、全く知らない学生では撮影が困難であると予想されたからである。

完成したメニューは次のようになった。

表1 大学案内用DVDのメニュー構成

トップメニュー	サブメニュー
イベント	合格の喜び 入学式 スポーツデイ 学園祭 卒業式 卒業の喜び
学生生活	学生生活と授業 部活動 資格取得 留学してきた人 留学した人
施設・地域貢献	就職活動 ビデオ編集講座（地域貢献） 花いっぱい パソコン教室（地域貢献） 図書館 センター試験会場案内（地域貢献） 検定試験システム作成（地域貢献） その他
卒業生の紹介	卒業生（民間企業） 卒業生（高校教員） 就職先の社長さん 卒業後の出来事
動画パズル	

人の撮影は時間と労力がかかる作業だった。卒業生の映像は、たまたま大学に帰って来た卒業生を利用するだけでなく、東京に出張して撮影したこともあった。留学生に関しては中国からの留学生に協力を求めた。また、ホームカミングデイという名前で行われるイベントで集まった卒業生にも協力を依頼した。

講義の撮影では個人的に講義の撮影の許可を求めたり、入学試験部会のメンバーにお願いしたりした。また、自分の講義は大講義室だったので、この撮影も行った。

部活動の撮影は部長に許可を求めたりして撮影したがダンス部はいつ自分たちを撮影するのかと問うほど積極的だった。

最も手間がかかったのはイベントだった。大学の予定を常にチェックしておき、イベントが行われるときには他の仕事は後回しにしてでも撮影に行った。

実際に映像を撮影してみると、ひとつひとつのビデオの長さがかなり長いものとなった。講義ひとつとっても、いつどのような内容が提示されるか予想がつかなくなったり、ハプニングが起こる可能性があったり、学生の表情の良いビデオが欲しかったりすると長く撮影する必要があった。しかし、撮影した素材はそのままでは長すぎて編集する必要があった。実際に自分でみたり他の人に見てもらったりしてテストした結果、ひとつのビデオクリップの作成では1分程度にまとめないと、見ている人の注意力が持続できないことであった。この作業はかなり時間がかかる作業だった。

3 利用状況

出来上がった大学案内用DVDは、自主講座と呼ばれる市民向け講座、コンソーシアムによる進学説明会、高校に出かけて行う講座・説明会（南高校、妻高校、えびの国際高校）、キャンパスガイド（オープンキャンパス）、定期公開講座、講義、などさまざまなチャンスで利用した。特にキャンパスガイドでは最も多くの高校生を対象にして利用するチャンスである。後で実施したアンケートでは多数の人が良い印象であったことを記しており、効果的であったと思われる。また、高校に出かけて行って行う講義では少人数を相手にして利用したが、この状況では、動画を見たときの雰囲気は直接分かった。パンフレットも持参して配付したがパンフレットを見たときの反応とは違い強い関心があることが見られ、動画の効果があることが確認された。

III 市民対象のビデオ編集講座

1 概要

平成19年度にビデオ編集講座を2度、平成20年度に1度開催した。この講座開催にあたって事前に、ビデオ編集で必要となるさまざまなステップを分かりやすく分類すること、テキストを作成すること、無料のソフトウェアについて調査すること、さまざまな人に経験談を聞いてより良い講座開催のためのヒントを得ることなどを行った。平成20年度は前年度の経験や大学案内用DVDを作成した経験を生かし、分かりやすいビデオ編集講座を目指して講座を実施した。調査に際しては宮崎公立大学の学生を被験者にして事前調査を行った。

2 事前準備

元テレビ局でカメラマンなどの映像の仕事をしておられた方と知り合いになることができた。そこで、この方に注意点などをお聞きすることができた。その結果、カメラマンらしく撮影の方法についてさまざまな注意をお聞きすることができた。しかし、今回の講座は撮影した後の編集に重点をおいていたので、この注意点は参考としてファイルにして示すこととした。

今回はビデオカメラから取り込んだ映像を処理する過程を説明することが主目的であるので、

そのステップを整理して示すことにした。編集段階ではビデオクリップの並びを決めたり、各ビデオクリップの不要部分を切捨てたり、文字の挿入、エフェクトのかけ方、トランジションの挿入などさまざまな編集作業を効率良く行うことを整理して示すこととした。実際にこれらの作業を行ってみるとコンピュータのパワーが現段階ではまだ十分ではなく、マウス操作でボタンをクリックするなどの操作でいくつかの作業を次々にコンピュータに指示するとすぐにハングアップしてしまうことが分かった。そこで、この点を講座では強調する必要がある。

次のステップは編集した映像をDVDに書き込めるよう設定することである。映像の編集が終わったらその結果を新しいビデオクリップとして一旦ファイルに出力しそのファイルを利用してディスクを作成する準備をすることとした。メニューやナビゲーションボタンの配置、チャプターの作成、サムネイル、BGMなどさまざまな設定はこの際に行うことになる。これらはビデオ映像を複数に分けて出力しておいてから利用すると良い結果が得られることからその説明を準備した。特に、各ビデオクリップの長さは1分程度にすることが視聴する人を飽きさせない長さであることが大学案内用DVDの作成ですでに分かっていた。

次のステップはディスクに書き込むことである。ディスクは受講生が超初心者という前提なので、操作を間違えても困らないようにすることが重要だと考えた。通常はDVD-Rを利用してDVDを作成することが多いと思われるが、今回はDVD-RWを使用することとした。これにより、例えば操作を間違えてしまっても書き換えることが可能だからである。このためにDVD-RWの消去から説明することとした。これは逆に説明の内容が増えるというデメリットが発生したが、DVD-Rを何枚も無駄にすることが予想されたのでむしろこの想定をした方が気持ちよく受講できると考えた。

この他に動画のクイズを作成する準備も行った。これはある写真とその中に一部が異なるが全体としてはほぼ同じ写真を用意し、一方から他方の写真にゆっくり変化するときどの部分が異なるのか発見できるかどうかを問うクイズである。これも大学案内用DVDの作成で得たノウハウである。これは写真が変化するので、動画として作成しなければならない。簡単な操作で動画作成の基本を学ぶことができると思われるので、このクイズ作成を講座の内容の一部とすることにした。

講座で説明する内容は家に帰ったときに忘れないよう、資料として用意しそれを受講生に渡すことにした。紙媒体では用意する側も労力がかかり、受け取った側も保存が大変だろうと思い、CDに焼いて配付することにした。

3 市民対象のビデオ編集講座の実施

図1はビデオ編集講座の受講生の年齢分布である。3回とも60代から70代にかけてピークがあり、受講者の年齢が高いことが分かる。ビデオ編集の需要は子供の成長の記録が多いと考え、この年齢構成はこちらの予想に反する。しかし、一方で休日とはいえ家を空けて講座を受講しに

大学に足を運べる人と考えると、この年齢構成は予想できた。結局子育て真最中の人は忙しくてこの講座に参加できないことが分かる。したがって、状況としてはおじいちゃんやおばあちゃんにビデオ編集の方法を覚えてもらってそれを父親や母親に伝えること、またはおじいちゃんおばあちゃん自らが編集をすることが考えられる。

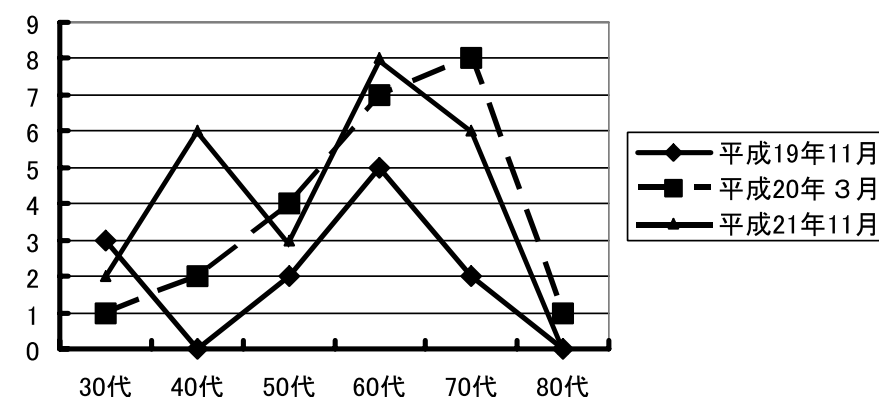


図1 ビデオ編集講座の受講生の年齢構成 (人数)

コンピュータの操作は、例外はあるものの高齢者ほど多くの説明をしなければならない。年齢が若い人ほど少ない説明で理解してもらえる。この一つの原因はコンピュータの基礎的な知識が高齢者ほど少ないと考えられる。講座の募集人数は30名としたので、30名全員を講師一人で担当するのはとても無理だと判断した。そこで、学生アルバイトを利用することにした。一人当たり10名と考えると3名の学生が必要である。実際に講座を始めてみたら、ある受講生が一人の学生をインストラクターとして独占してしまった。この原因はこの受講生が講師の説明を聞いていなくてすべて学生インストラクターに質問していたからである。したがって、残りの2名の学生が29名を担当することになりそうだった。しかし、受講生の中にある程度経験した方がいて、この方が他の人の面倒をみてくださった。この方のおかげもあって特に不満を耳にすることなく講座を続けることができた。

この場合は受講生の助力があったので講座を続けることができたが、本当の解決策は講師の説明を殆ど聞いていない状態を作らないことである。この方は年長の方でこのような説明を聞くことに慣れていなかったからだと思われる。この対策を行うよう次回からは注意したい。講座が始まってすぐにモニタを使って講師がとても簡単な説明をして、それを基にある質問に答えるという練習をする必要があったと思われる。これは今回のように比較的年齢が高い人を対象とした講座を開いたときに共通する問題だと思われる。より具体的に説明すると、事前にあるソフトウェアを用意しておき、そのソフトウェアを立ち上げるとボタンや図が表示される。その中のあるボ

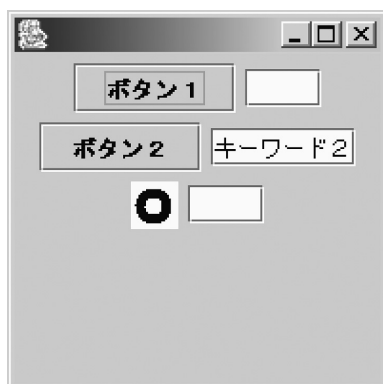


図2 市民講座で使用する初めの操作ウインドウ

タンを押すよう講師が説明をする。実際にボタンを押すとあるキーワードが表示されるようソフトウェアを作成しておく。講師の説明をちゃんと聞いていた受講生はキーワードを見ることができるが、説明を聞いていない受講生はキーワードを知ることができない。この結果受講生自らが講師の説明を聞く状態にあるのか、十分に聞いていない状態なのかを知ることができ、本人に自覚を求めることができる。この結論は今回の重要な収穫だと思っている。

次に行う必要がある操作はフォルダ作成などの基本的な操作である。意外とフォルダ作成はできない人が多い。次は、ドライブという概念の説明である。ドライ

ブが異なれば記録しているフォルダやファイルは例え名前が同じでも全く別物という考えがなかなか理解できないようである。受講生の要望を聞いたら、ビデオ編集機能を知りたいが説明を聞いていて感じることは、基本の理論を知りたいということだった。この場合の基本の理論とはコンピュータのディスクの構成や、ファイル名の付け方のルールや、複数のウインドウを開いて操作する方法などと思われる。

次に男女の違いについて考察してみた。図は講座に参加した人数を表している。各講座では、おおむね男女同数が参加した。受講者の様子を見る限りでは特に男女による違いはないように思われる。今回は男女の違いについては留意する必要はないという結論に達した。

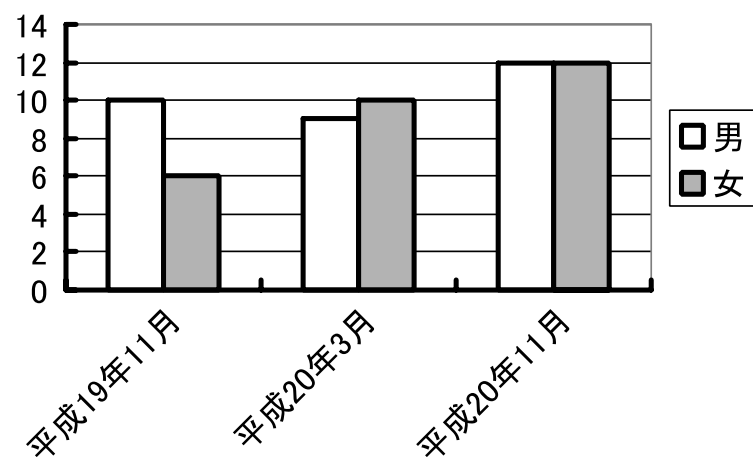


図3 ビデオ編集講座の受講生の男女構成（人数）

4 アンケート結果

講座が終わったらアンケートをとった。アンケートの内容は5問だった。初めの質問は講座を知った方法に関するもので結果は次の通りだった。

(1) この講座をどのようにして知りましたか？

市の広報 24名
知人から 6名
その他 0名

その他のアンケートの結果は次の通りだった。

表2 講座後に行ったアンケートの結果

	全く分からなかった	あまり分からなかった	普通	よく分かった	とてもよく分かった	未記入	普通以上の人数	普通以上の人数の割合(%)
動画パズルの作り方	1	6	7	7	8	2	24	83
カメラからの取り込み方	1	2	7	13	7	1	28	93
動画の編集	2	7	7	9	6	0	22	71
DVDに書き込む方法	1	9	6	9	6	0	21	68

動画パズルの作り方やカメラからの取り込みに関しては80%を超える受講生が普通以上の回答であるが、動画の編集やDVDに書き込む方法となると70%程度と減少する。

理解の程度が70%程度の質問については、操作が複雑でこの結果は理解できる。アンケートでは以上の質問の他に自由記述を求めたが、これを見ると、ある人の記述内容は「あまり良く分からなかったに丸をしましたが、今は出来たが家では出来ないと思うから。(途中省略) 2回3回と通いたい」だった。記名もされていてとても熱心な方だと感じた。また、別な方は「有料でも少しの

金額ならばかまわない。早速やらないと忘れそう。ちょっとしたサポートが必要かも。」だった。また、「再度講座を実施してください。」などと回数を増やすことを希望する内容が多かった。また、「先生のご指導がよくわかりやすく大変受講してありがたかったです。」や「説明は大きな声で分かりやすい。」など、説明が分かりにくいという記述はなかった。受講生には説明の内容をファイルにしてCDで提供したが、このCDが利用できたのも良かったようだ。

4 まとめ

コンピュータによるビデオ編集講座を、市民を対象として3回行った。その結果毎回ほぼ定員を満たす参加者があり、十分需要があることが分かった。参加できなかった人から次回は必ず参加したいので、連絡をして欲しいという要望が届いたこともあった。実際に講座を行った結果参加者の年齢は高く、説明の方法に工夫が必要であることが分かった。

まず学生インストラクターは3名程度必須であること、受講生には講座の初めに講師の説明を聞くように促すことが重要であること、DVDは書き換え可能なDVD-RWを使用することが望ましいこと、ビデオ編集は動画クイズを利用して説明すると良いこと、編集作業に必要な説明は理解が難しいので、内容を増やさないことなど、逆にフォルダ作成などのコンピュータの操作にかかわる基本的な知識は確認する必要があることなど講座を開くために心得ておくことが多数分かった。今後の地域貢献に際して利用する予定である。